

病虫害防除所情報第6号

令和2年 7月31日
山梨県病虫害防除所

【ブドウ晩腐病に注意】

1. 発生要因

- ・本年5～7月の降雨日数は45日間、降水量は690mmで、過去10年平均と比べ多く、晩腐病の主要な感染時期である6～7月は特に多かった。(図1)。
- ・晩腐病は、中間～遅場産地において4倍体品種を中心に発生があるが、昨年発生があったほ場における病原菌の密度は高いと考えられる。
- ・本年、着色始めから収穫期近くになったほ場で発病が見え始めており、今後発生が多くなると予想される。

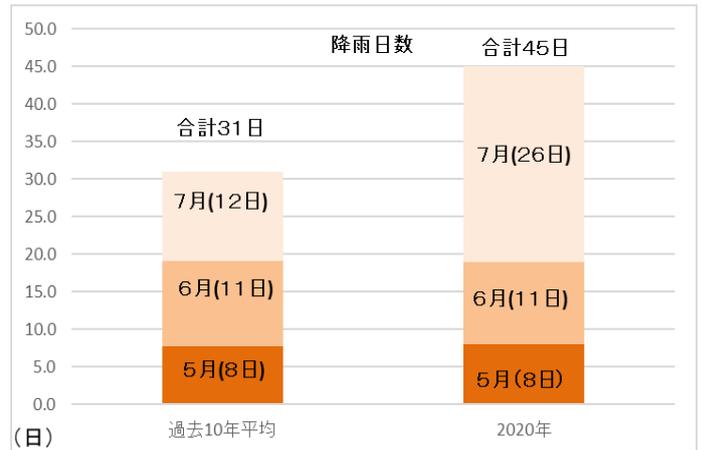
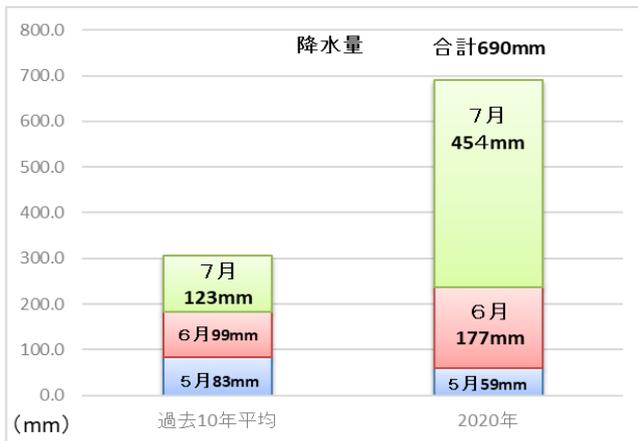


図1 過去10年平均と今年の降雨日数、降水量(5～7月)

2. 当面の防除対策

- ・発病果房(発病果粒)から健全部に感染が広がり、さらに被害が拡大するので、ほ場をよく見回り、早期発見に努める(図2、3)。
- ・発病果粒は二次感染源となるため、見つけ次第除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。



図2 着色始めの発病果房



図3 収穫期の発病果房